

に設置
かばん装
小型

子供の安全監視

筑波大 カメラで状況把握

筑波大学の中内靖准教授らはかばんなどに取り付けた小型装置を使って、登下校時などの子供を見守るシステムを試作した。地球測位システム(GPS)を使った既存の商品は位置情報しか確認できないが、カメラ

やセンサーを組み合わせたことで子供の行動履歴や映像情報、異常事態の発生などを把握できる。犯罪被害抑止につながる

システムとして1年後をめどに実用化する考えだ。

試作したシステムはラ

ンドセルやかばんに小型カメラと加速度センサーなどを取り付ける。定期的に周辺の様子をカメラで撮影するとともに、GPSで位置情報を確認する。撮影画像と位置情報のデータは、携帯電話などを使いインターネット経由で遠隔地にあるサーバーに送信して保管。保護者と警備会社などが確認できるようにする。

子供が歩いたり階段を上ったりといった日常的な行動時のデータをあらかじめ登録しておくことで、子供が揺さぶられたり手を引っ張られたりした際は、加速度センサーが異常振動と判定する。すぐにカメラで現場の映像を撮影すると同時に位置情報を特定し、監視している警備会社と連絡する仕組みだ。

子供が通学領域を大きく外れて行動した場合や事故などでシステムに衝撃を受けた際も同様に連絡する。